

# 新潟県に災害をもたらした主な気象事例

## 令和4（2022）年8月3日から4日にかけての前線による大雨

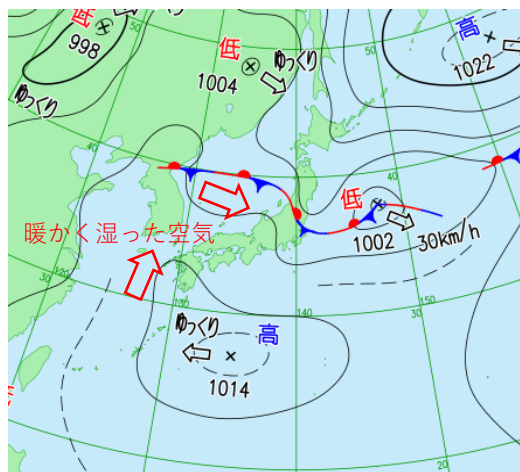
### 線状降水帯が繰り返し発生 荒川流域を中心に大きな被害

#### 【概要】

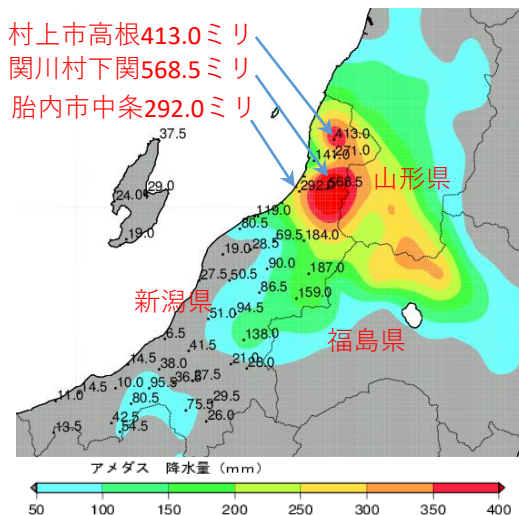
令和4（2022）年8月3日、前線を伴った低気圧が北日本を通過し、前線が4日にかけて北陸地方をゆっくりと南下した。前線や低気圧に向かって、太平洋高気圧の縁をまわる空気や台風第6号を起源とする暖かく湿った空気が流れ込み、線状降水帯が繰り返し発生するなどした下越を中心に記録的な大雨となった。8月3日から4日にかけての総降水量は、関川村下関で568.5ミリ、村上市高根で413.0ミリ、胎内市中条で292.0ミリなどとなった。特に、4日未明に発達した積乱雲が荒川流域にかかり続け、雷を伴った猛烈な雨が降った関川村下関で1時間降水量149.0ミリ、3時間降水量323.5ミリを観測し、観測史上1位の値を更新した。4日未明から明け方には、村上市、関川村、胎内市に大雨特別警報（土砂災害、浸水害）を順次発表した。

この大雨により、村上市、関川村、胎内市を中心に、土砂災害、河川被害、浸水害などが発生し、特に、村上市と関川村の荒川流域の被害が大きかった。

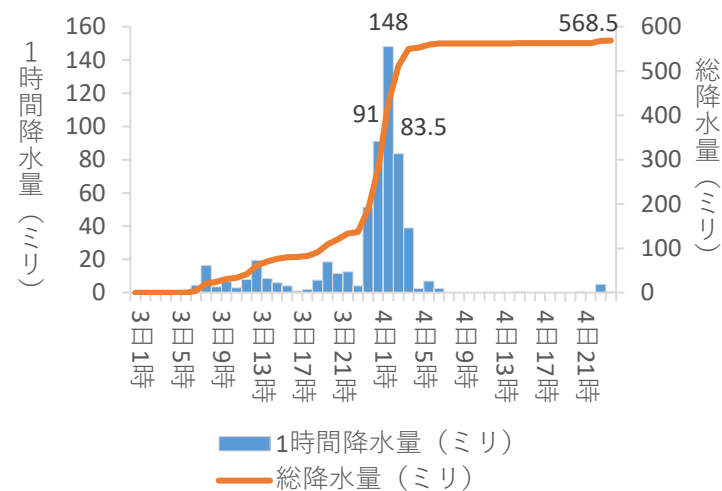
（被害状況は新潟県まとめ資料を参考に新潟地方気象台にて記述）



地上天気図（速報） 8月4日3時



8月3日～4日の積算降水量



関川村下関の降水量（8月3日～4日）